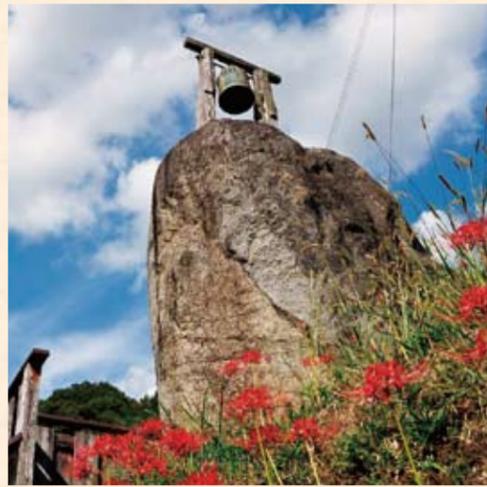


新にこの愛と
の息づく古里

万葉故地

忍 阪



じんごいし
神籠石

まちづくりマップ

石位寺の優美な「伝 薬師三尊石佛」

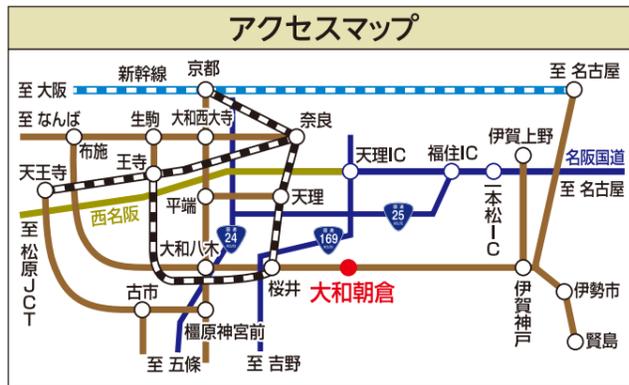
石位寺にあるのが白鳳時代の石彫三尊像で、国の重要文化財である「伝 薬師三尊石佛」です。

丸みを帯びた三角状の砂岩に柔らかな微笑みを浮かべる三尊が浮き彫りされており、唇や法衣、蓮華座に朱が施されているのがみとれます。遠近法による奥行きのある表現など高度な技術を持つ一流の石工の手によって作られたことが推測され、日本の石仏史の第1ページを飾る白鳳時代の名品といわれています。

一説には、この石仏が当初は忍阪からほど近い栗原寺にあって、額田王の念持仏だったという伝承があります。この栗原寺は出土した三重塔露盤の伏鉢の銘文により、天武天皇に仕えた仲臣朝臣大嶋が草壁皇子の命を弔って発願し、その遺志を引き継いだ比売朝臣額田によって和銅八年(715年)に建立されたことがわかっています。この比売朝臣額田を額田王とする学説もあり、伝承にあるようにこの石仏が額田王の念持仏であったとするならば、川の流れのように忍阪の石位寺に辿り着き、今、皆様への祈りと共に微笑みの石仏となって悠久の時の中で語りかけてくれているのではないのでしょうか。



拝観を希望される方は下記まで事前に申し込みください。
☆桜井市観光課
0744-42-9111(内線341)
拝観時間:10:00~16:00



協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、様々な地域でマップづくりを行っています。平成24年度は「忍阪(桜井市)」と「福住(天理市)」で作成しました。

他の地区のマップも是非ご覧ください。

奈良県まちづくりマップ 検索

■このマップは、「忍阪区」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(奈良県)」が協働で作成しました。
■平成25年(2013年)3月発行
■問い合わせ先:
忍阪区(ホームページ) 「忍阪の風」で検索
(桜井市観光課 TEL 0744-42-9111)
奈良県地域デザイン推進課 (TEL 0742-27-5433)

忍阪周辺の歴史街道



裏面マップ範囲

※忍阪へのアクセス
近鉄大和朝倉駅から
石位寺まで徒歩約20分

忍阪街道は、宇陀から奈良盆地に進軍したといわれる神武天皇ゆかりの道です。

忍阪の歴史と風土

万葉集に詠われる忍坂山(外鎌山)山麓の古道「忍坂街道」沿いに広がる忍阪は、記紀(古事記・日本書紀)の神武東征の際に「忍坂の大室」として登場し、和歌山県橋本市の隅田八幡宮所蔵の国宝・人物画像鏡に「意柴沙加宮」と金石文で刻まれていることでも知られるヤマト政権を支えた重要拠点とされています。

旧街道の周辺には古い町並みが残り、日本初の八角墳で知られる舒明天皇陵、また額田王の姉とも言われ藤原鎌足の正室となった鏡王女墓など、歴史深き風土の中にあります。

允恭天皇の皇后の忍坂大中姫の宮殿があったとの伝承がありますが、発掘調査される機会がなく、未だおしさが宮跡は発見されていません。いつかその機会がくれば、その宮殿跡が見つかるかも知れません。



忍阪区民は、この「忍坂山」を宮山として、毎日手を合わせてあがめています。いにしえからの尊き山です。



人物画像鏡にある「意柴沙加宮」の文字

忍阪を訪れた文人たち

万葉学者の犬養孝が、著書「万葉とともに」でも奥の谷の景観を「将来はわからないにしても、せめてこの山ぶところの静けさだけでも、この国の未来にかけてこのまま残ってほしいものである」と評され、その景観は今も忍阪区民の手で大切に守られています。

また、桜井市出身の日本浪漫派のリーダーとして名を成した文芸評論家の保田與重郎は自身の短編に、石位寺の三尊石仏を額田王の念持仏ではないかとの考えを示し幅広く世間に紹介しました。作家の川端康成も「ほのぼのとした暖かいものがある、美少女といった感じでもあろうか」と評しました。

他にも作家の佐藤春夫、井上靖、随筆家の岡部伊都子、俳人の山口誓子、星野立子、水原秋桜子などが訪れています。

また、写真家の入江泰吉は、たびたび忍阪を訪れ数多くの名作を残しています。

『押坂の古川岸のねこやなぎ
ぬれてやさしき春の雪かな』
(木丹木母集・保田與重郎)



佐藤春夫氏(昭和39年)

